

平成28年度事務事業評価シート						取組みコード	2122
区分	補助金・交付金		担当課	消防課	作成日	平成28年5月11日	
事業名	消防団運営費補助金		開始年度	不明	予算科目	8.1.2.3.3	

1 事業の概要

総合計画での位置づけ			
部	第2部 安全で安心して暮らせるまちづくり	章	第1章 災害対策と安全対策
節	第2節 消防・救急体制の充実	基本施策	2 消防体制の充実
取組みの基本方向			
根拠法令等	愛川町消防団運営費補助金交付要綱		
目 的 (誰・何を対象に、何のために)	愛川町消防団の円滑な運営及び団員の福利厚生を図る。		
内容・方法 (何を行っているのか)	消防団本部、各分団(3個分団)、各部(15個部)に対し、年間の運営費を補助し、①各種訓練・研修等の実施、②火災予防・広報活動等の実施、③その他目的達成上必要な事業に充てさせている。		

2 指標(事業の成果・活動内容等を数字で表します)

本事業が属する総合計画の節の成果指標		指標名	平成21年度	平成28年度				
		『消防・救急体制の充実』について「満足」と感じる住民の割合	54.3%	57.0%				
(A)総合計画の節の目標を達成するため本事業に求められる成果		消防団活動の充実						
(A)の成果をあげられているか測るための指標(成果指標)	増減	指標の説明	項目	基準年度 (平成25年度)	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
事業実施回数	増	研修や訓練等の実施回数により、活動の充実度を測る	計画値		20.0	29.0	21.0	
			実績値	20.0	20.0	29.0		
			達成度※自動計算		100.0	100.0	0.0	
(B)成果指標の目標を達成するため本事業において町が行う活動		本事業は補助金の給付のみであるため、町の活動としては、申請書の受理、報告書の審査等だけであることから、活動指標の設定は行わない。						
(B)の活動状況を測るための指標(活動指標)	増減	指標の説明	項目		平成26年度	平成27年度	平成28年度	
			計画値					
			実績値					
			達成度※自動計算		計測不能	計測不能	計測不能	

※ 増減欄は、指標の値について、増加が望ましい場合に「増」、減少が望ましい場合に「減」を記入する。

3 事業費の推移と財源内訳

3 事業費の推移と財源内訳			(E) 平均人件費(円/年)	8,300,000		
年 度			基準年度(決算) (平成25年度)	平成26年度(決算)	平成27年度(決算見込)	平成28年度(予算)
(A) 事業費(円)			9,503,000	9,173,000	9,223,000	9,293,000
(B) 概算職員数(人)			0.084	0.084	0.084	0.084
(C) = (B) × (E) 人件費(円) ※自動計算			697,200	697,200	697,200	697,200
(D) = (A) + (C) 総事業費(円) ※自動計算			10,200,200	9,870,200	9,920,200	9,990,200
単位当たりコスト※自動計算			510,010.0	493,510.0	342,075.9	
財源内訳(円)	特定財源	国庫支出金				
		県支出金				
		地方債				
		その他				
	一般財源※自動計算		10,200,200	9,870,200	9,920,200	9,990,200

4 事業の項目別評価(分析)

項 目	判定基準	判定 ※一部自動判定	評価 ※自動判定
妥当性 (公費を投入して実施することが妥当な事業か)	法令等で義務付けられた事業である		B
	民間サービスで同様の事業は実施されていない、市場原理に委ねることができない	○	
	国や県において実施している事業との重複がない	○	
	事業開始時から事業目的や町民のニーズの低下や変質がない		
	事業・サービスの提供時間帯及び場所は公平に提供されている		
	受益に応じた負担は適正である	○	
	事業の実施による効果が不特定多数の人に広く及ぶ性質である	○	
	事業・サービスの対象者の日常生活に必要な不可欠な事業である		
	上記のいずれにも当てはまらない		
有効性 (基準年と比較して成果が上がっているか)	成果指標について平成27年度の目標を達成している	○	A
	基準年度と比較して成果が向上している	○	
効率性 (なるべく費用をかけずに成果を上げているか)	基準年度と比較して費用の縮減ができている (費用の縮減率が成果の向上率以上か)	費用減、成果アップ	A
有用性 (施策の成果指標の目標達成に貢献しているか)	総合計画の節の目標達成のための本事業の効果	間接的	B
	総合計画の節内での本事業の優先順位	高い	
総合評価 ※自動判定		良好に実施できている	

5 特記事項

6 自己評価(担当課)

評価結果	現状維持
理由	消防団の円滑な運営に役立てられているため
今後の方向性	消防団は非常勤職員として、他に本業を持ちながら郷土愛に燃え、生命・身体・財産を災害から守るため、各種火災出動はもとより火災予防活動、各種訓練を行い、地域防災の重要な役割を果たしているため、本事業は現状維持とする。

7 1次評価(庁内行政評価委員会)

評価結果	現状維持
今後の方向性に係る意見等	所管課の方向性のとおり

8 2次評価(外部評価:行政改革推進委員会)

評価結果	
今後の方向性に係る意見等	

9 2次評価(実施のない場合は1次評価)を踏まえた対応案(担当課)

現状のまま引き続き事業を実施する。

10 町の最終方針(行政改革推進本部会議)

評価結果	現状維持
理由・改善方針	現状のまま引き続き事業を実施する。